

**産学官連携プラン** 立命館大学では、産学官連携活動にあたり、以下のようなメニューをご用意しております。

## 研究交流

### 受託研究

民間企業・公的研究機関から委託された課題について研究を行います。

### 共同研究

民間企業・公的研究機関から共同研究員を受け入れ、共同で研究を行います。

### 技術指導

民間企業・公的研究機関の研究者に対し、技術指導を行います。

### 研究交流実施のプロセス

相談

コーディネート

提案

申込書

研究機関による  
研究受入審議契約  
締結

実施

報告

リサーチオフィスが窓口となって、提案書を作成します。契約内容等を調整します。

### 奨学寄附金

本学の研究・教育組織や教員個人に対して、教育研究援助を目的として寄附金・設備などをご提供ください。

### 研究プロジェクト企画・申請・運営

複数の企業と大学でチームを編成し、経済産業省、文部科学省、農林水産省、環境省など公的研究開発事業のプロジェクト企画・申請・運営を行います。

### 知的財産の創出・保護・活用

- (1) 研究交流等で創出されたさまざまな知的財産を組織的に管理・活用します。
- (2) 特許等の知的財産を、実施許諾等の方法で民間企業へライセンスを行います。

## 施設利用

### レンタルラボ

キャンパス内に「産学連携ラボラトリー」を設置し、研究交流先企業に対し、大学の研究室とより密接な研究交流が可能となるよう、実験室を貸し出します。

### インキュベーション施設

キャンパス内に大学発ベンチャーのためのインキュベーション施設（BKCインキュベータ）を設置しています。インキュベーションマネージャーを配置し、技術面、経営面などの支援を行います。

### SRセンター・装置利用

SRセンターの各種装置（非破壊検査、微細加工、軟X線顕微鏡、構造分析・新材料開発）を有料で使用できます。なお文部科学省補助事業「先端研究施設共用促進事業」により、民間企業等の研究者が装置利用料の支援を受けることができます。

## 産学官連携研究コンソーシアム（会員制研究会）

立命館大学では、研究組織等が産学官連携研究コンソーシアム（会員制研究会）を結成しています。

各会では、内外の著名な研究者を招いての講演会、技術動向調査報告会、研究交流相談会等の機会を設け、会員企業との交流を推進しています。

### ●立命館科学技術振興会（ASTER；アスター）

立命館科学技術振興会は立命館大学びわこ・くさつキャンパスに基盤を置き、「法人企業会員、立命館大学教職員会員、有志個人会員」の皆様方のご支援・ご協力を得て、わが国の科学技術の発展・促進を振興する団体です。（年会費：10万円）

#### 【立命館科学技術振興会の事業内容】

- 科学技術振興：技術・経営講習会/教員による出張講義/研究室ツアー（オープンハウス）/奨学事業
  - 産学交流：名刺交換会/合同企業説明会（採用説明会）/企業訪問ツアー/学生向け技術説明会/学生向け会員紹介冊子の発行
  - 各種学内サービス：メールマガジン（イベント情報の発信）/ライブラリーカード（図書カード）の発行/産学連携ラボの割引制度
- #### 【立命館科学技術振興会入会の特典】
- 本学教員、研究者による講習・講義への参加
  - 本学研究者、学生との交流イベントへの参加
  - 産学連携ラボ等、学内施設の割引使用等
  - 図書館の利用（閲覧/貸出）

### ●バイオメディカルデバイス研究会

学外の企業技術者と本学の研究者が研究開発情報の意見交換や交流を行い、バイオメディカルデバイス技術の社会への成果還元を進めます。（年会費：5万円）

### ●BeActive研究会

研究センター研究者および、法人会員、個人会員、賛助会員から構成されており、わが国の「健康」「スポーツ」に関わる産業を国際競争力の高い産業に押し上げるための、産と学の連携プラットフォームを提供します。（年会費：10万円）

### ●防災フロンティア研究会

実効性ある研究を推進させるための「人（産学官）」と「情報（知識やアイデア）」の拠点形成を目的とし、異分野融合型の総合的な防災拠点の樹立を目指します。最新の研究成果の報告、国内外技術動向の調査・分析や講習会などを実施します。（年会費：10万円）

### ●創薬研究コンソーシアム

創薬分野において特に治療満足度が低い、がん領域、アルツハイマーを始め、希少難治性疾患領域などを対象に、産学官連携による研究・開発活動の取り組みを行います。

### ●創剤研究コンソーシアム

新薬候補化合物の効果を最大化するための前製剤化研究とその評価技術および、ヒトで早く検証するための探索的臨床試験研究などの橋渡し研究に関して、創薬現場から産学官連携の活性化を図るため活動を展開する予定です。（年会費：5万円）

### ●製剤技術研究コンソーシアム

研究センター研究者及びコンソーシアム会員企業が、「製剤」をキーワードに技術・経営課題を相互に共有し、これら課題を解決できるような製剤研究交流拠点の構築を目指しています。（年会費：8万円）

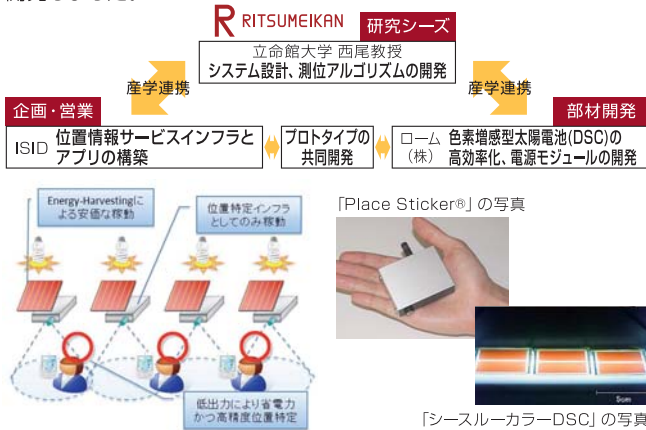
## 立命館大学 産学官連携成果事例

### 企業との研究交流 成果事例(1)

#### 高精度な屋内位置特定インフラの開発

##### ■共同開発

西尾 信彦教授(情報理工学部)  
 連携先:株式会社電通国際情報サービス(ISID) / ローム株式会社  
 GPS測位が屋内や地下街において、スマートフォンなどへ位置情報サービスを提供する技術として、エネルギーハーベスティング方式による稼動が可能で高精度な屋内測位インフラ「Place Sticker®」を開発しました。



### 企業との研究交流 成果事例(2)

#### ハイブリッド型芳香族導電性ポリマーの開発

##### ■新製品開発

北 泰行教授(薬学部)  
 連携先:ナガセコムテックス株式会社 / 長瀬産業株式会社  
 北教授が開発したヨウ素反応剤を用いるヘテロ芳香族のカップリング反応を応用して、溶媒に可溶性高導電性有機ポリマーを開発することに成功し、実用化への目途を立てました。本法はレアメタルを必要としないカップリング法として注目されています。

##### 研究シーズの実用化・製品化における三者の役割

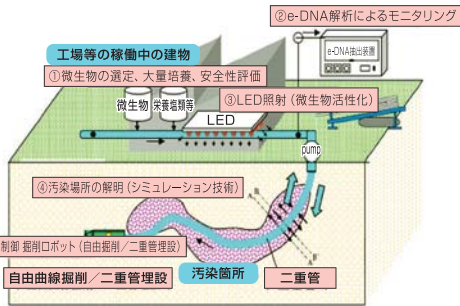


### 企業との研究交流 成果事例(3)

#### 油汚染土壌を環境にやさしく効率的に浄化するバイオ浄化技術

##### ■新製品開発

久保 幹教授(生命科学部)  
 連携先:日工株式会社 / 株式会社熊谷組 / 星和電機株式会社  
 久保教授らは、石油に汚染された土壌を微生物を使って効率的に浄化するバイオレメディエーション技術を開発しました。本技術は、シクロアルカンなど難分解性の炭化水素を効率よく分解する微生物を用いるとともに、立命館大学の環境DNA解析法などを活用した環境影響評価手法を確立している点が特徴であり、経済産業省・環境省の「微生物によるバイオレメディエーション利用指針」に本技術が適合しているとの大臣確認を得ました。



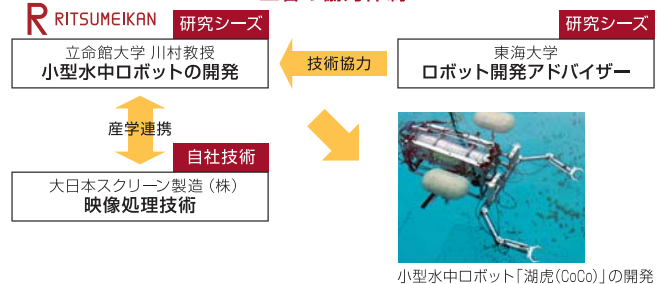
### 企業との研究交流 成果事例(4)

#### 小型水中ロボット「湖虎(CoCo)」の開発

##### ■共同開発

川村 貞夫教授(理工学部)  
 連携先:大日本スクリーン製造株式会社 / 東海大学  
 川村教授が研究している水中ロボットのスラスタを使った移動技術及びアーム技術と大日本スクリーン製造(株)が持つ水中カメラの画像処理技術を駆使して、水中のサンプル採取や生物採取、ゴミ集めなどの環境保全にも活躍できるロボットを開発しました。

##### 三者の協力体制



## 研究・産学官連携をより高度化させるための大学間連携協定(主にライフサイエンス関係)

滋賀医科大学 教育研究協力に関する協定(2010~)

京都府立医科大学 学術交流に関する包括協定(2005~)

関西医科大学 学術交流に関する包括協定(2007~)

京都大学 連携協力に関する基本協定(2007~)

### お問合せ先

【自然科学系】BKCリサーチオフィス  
 TEL:077-561-2802  
 FAX:077-561-2811  
 Email:liaisonb@st.ritsume.ac.jp

【人文科学系】衣笠リサーチオフィス  
 TEL:075-465-8224  
 FAX:075-465-8342  
 Email:liaisonk@st.ritsume.ac.jp

【社会科学系】OICリサーチオフィス  
 TEL:072-665-2570  
 FAX:072-665-2579  
 Email:oicr@st.ritsume.ac.jp